

有限会社朝霧牧場 環境活動レポート

平成 20 年 10 月 30 日

●環境方針

人々の生活や生産活動から発生する有機性廃棄物を優良なコンポストに変え、農業振興発展及び緑化事業に寄与する完全循環型のトータルシステムにより、地球環境全体に貢献することを基本方針とする。

廃棄物の適正処理及び管理体制の整備を環境に配慮し企業活動を取組む。

- ① 環境法令遵守による廃棄物の更なる適正処理に努める。
- ② 有機性廃棄物から高品質コンポストを製造、販売し環境負荷の少ない農業振興及び緑化事業に努める。
- ③ 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>の発生抑制に努める。
- ④ 管理体制を整備し継続的に適正な管理を推進する。
- ⑤ 社員に対し継続的に環境に関する教育を行い、環境保全に関する意識の向上に努める。

平成19年9月3日 改定

有限会社朝霧牧場

代表取締役 箕 威頼

署名

箕 威頼

● 事業概要

(1) 事業所名

有限会社朝霧牧場

代表取締役 箕 威頼

(2) 所在地

静岡県富士宮市人穴203番地の51

(3) 法人設立年月日

昭和40年3月20日

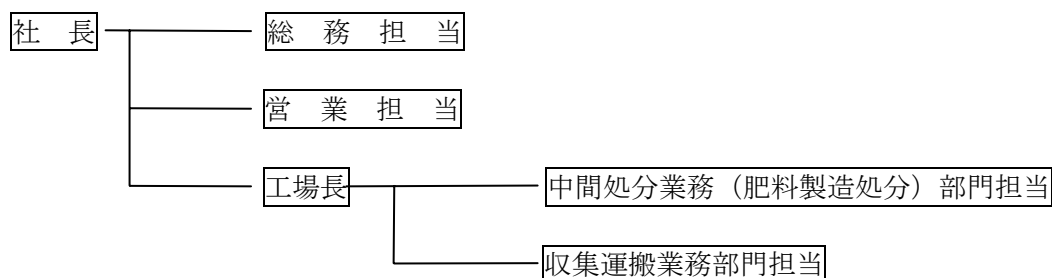
(4) 資本金

1000万円

(5) 売上高

1億7178万円(2007年8月1日~2008年7月31日)

(6) 組織図



(7) 敷地面積 44,000 m<sup>2</sup>  
サイト面積 4,700 m<sup>2</sup>

(8) 事業概要

産業廃棄物処分業  
中間処分 肥料製造処分

(9) 事業内容（年間）

汚泥処分量 11,784.37 t  
肥料製造量 1,425.65 t  
従業員 10名

(10)

A) 許可の内容

中間処分業に関する事業範囲

許可都道府県：静岡県

許可の有効期限：平成22年11月20日

事業区分：中間処分（肥料製造処分）

産業廃棄物の種類：汚泥・廃油・動植物性残さ・動物のふん尿

許可の条件：無し

許可番号：2221035682

収集運搬業に関する事業範囲

許可都道府県：静岡県、静岡市

許可の有効期限：平成21年5月6日

事業区分：収集運搬（積み替え及び保管行為を除く）

産業廃棄物の種類：汚泥・廃油・動植物性残さ・動物のふん尿

許可の条件：無し

許可番号：2202035682

許可都道府県：山梨県

許可の有効期限：平成21年6月17日

事業区分：収集運搬（積み替え及び保管行為を除く）

産業廃棄物の種類：動植物性残さ

許可の条件：無し

許可番号：1900035682

B) 施設等の状況

・収集運搬業者

運搬車両の種類と台数

10 t ロールオン車	1 台
4 t ダンプ車	1 台
4 t ユニック車	1 台

保管施設がある場合はその面積と保管上限量  
保管設備無し

・処分業者

処分施設の種類

肥料製造施設

処分する産業廃棄物の種類

汚泥・廃油・動植物性残さ・動物のふん尿

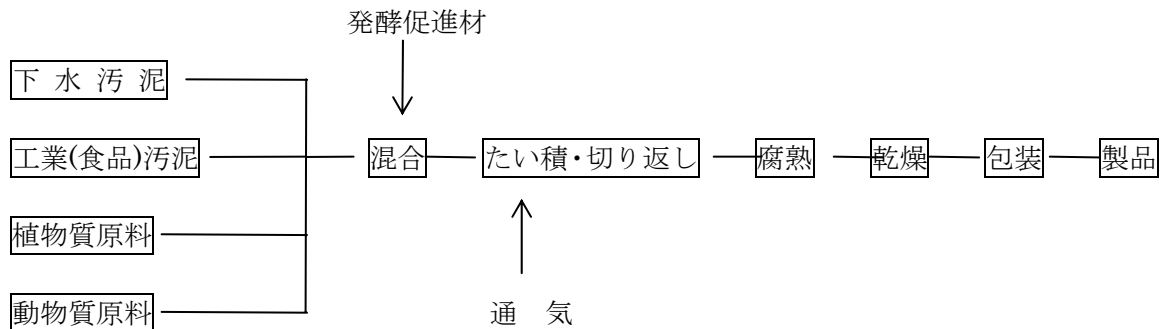
処理能力（規模）

- ・汚泥・・・・・・・・・・・・・・・・60.0t/日(8.0時間)
- ・廃油・・・・・・・・・・・・・・・・2.0t/日(8.0時間)
- ・動植物性残さ・・・・・・・・10.0t/日(8.0時間)
- ・動物のふん尿・・・・・・・・8.0t/日(8.0時間)

処理方式

汚泥、廃油、動植物性残渣、動物のふん尿等を受け入れ、高速醗酵システム及び重機を用いて混合、一次醗酵、二次醗酵を実施する工程にて中間処分(肥料化製造処分)を行い肥料を製造し売却する

処理工程図



C) 処理実績

汚泥	8964.34 t
廃油	339.70 t
動植物性残さ	2468.33 t
動物の糞尿	42.00 t

(1 1) 廃棄物処理料金

・収集運搬料金

種類、量、距離により算出いたします。当社担当 簗 までご相談ください。  
無料にてお見積もりいたします。

・中間処分料金

種類、量、廃棄物物性及び、当社にて行う醗酵分析結果により算出いたします。  
当社担当 簗 までご相談ください。1 k g 程度のサンプルを頂ければ、無料にて  
醗酵分析を実施しお見積もりいたします。

(1 2) 環境保全関係の担当者連絡先

担当者 簗 威頼

連絡先 電話：0544-52-0212 FAX：0544-52-1122

e-mail:t-mino@asagiri-f.co.jp

● 環境目標とその実績

当社は以下の目標を掲げて環境活動に取り組みます。

2007年度(2007年8月1日～2008年7月31日) 環境目標

環境目的		環境目標	実績	環境目標	環境目標
(中期目標)		(2007年度) 2007年8月～2008年7月	(通年)	(2008年度)	(2009年度)
1	受入廃棄物処分量の拡大 04年度比09年度までに32%増	04年度比14%増	04年度対比 32.28%増	04年度比30%増	04年度比32%増
2	総排水量を受入処分量高比5%削減 04年度実績に対し09年度までに (受入処分量高1億円当たり)	04年度比5%減	04年度対比 10.33%増	04年度比2%減	04年度比5%減
	総排水量を受入処分量高比2%削減 04年度実績に対し09年度までに (対総排水量)	04年度比2%減	04年度対比 52.13%増	04年度比0.5%減	04年度比2%減
	(受入処分量高1億円当たり)				
3	CO2排出量受入処分量高比32%削減 04年度実績に対し09年度までに (受入処分量高1億円当たり)	04年度比8%削減	04年度対比 31.31% 削減	04年度比30%削 減	04年度比32%削 減
	CO2排出量受入処分量高比6%削減 04年度実績に対し09年度までに (対Co2総排出量)	04年度比0.2%削減	04年度対比 5.26% 削減	04年度対比 6% 削減	04年度対比 6% 削減
	(受入処分量高1億円当たり)				
4	バイオディーゼル導入の検討(BDF)	ホルローダーに試験導入	ホルローダー2台導入 良好の為、通年使用	施設内重機に対してBDF導入検討	
5	力率改善	混練機への導入調査	検討中	実機評価	導入予定
6	環境保全活動の推進と委託先への指示の徹底	請負先への情報伝達	伝達フォーム検討	伝達	出張教育
7	環境教育・訓練プログラムの確立と推進・維持	教育訓練計画の作成	教育5回実施		
8	社会貢献活動の推進	製造コンポストの提供によるリサイクルの啓蒙	5事業所に提供		
		・web siteでの情報提供	公開中		
		・現場見学の実施	25回実施		
9	新規肥料の開発及び肥料効果の実証実験	新規肥料の開発推進 実験農場での実験推進	新規肥料の有効性を検証	新規肥料の商品化の推進	新規肥料の商品化の推進

● 主要な環境活動計画の内容

- (1) 総給排水量の削減  
流量計設置による計測。
- (2) CO<sub>2</sub>排出量の削減  
設備の有効稼働促進と受注の拡大
- (3) バイオディーゼル(BDF)の導入
- (4) 社会貢献活動の推進  
製品コンポストの啓蒙促進

website での情報提供

- (5) 新規肥料の製造
- (6) 実験農場での実証実験

●活動計画の取り組み結果の評価

- (1) 受入廃棄物処分量の拡大  
2004年同期比 32.28%増 (2007年度通年)  
目 標 達成  
取組内容 新規営業案件が集中的に重なり、目標に達成した。伸び率が高かった為、来期の目標設定を若干上方修正する。
- (2) 総排水量を受入処分高比5%削減  
目 標 流量計設置達成  
総排水量の削減 未達成  
原因対策 流量計設置が終了し計測。  
流量計設置後の臨時に発生した利用水量の増加により削減計画が未達成となった。今期末にフロートレススイッチ設置により、計画的な使用水量の促進が見込まれる。
- (3) CO2排出量を受入処分高比8%削減  
2004年同期比 31.31%削減(2007年度通年)  
(受入処分高 1億円当たり)  
目 標 達成  
CO2排出量を受入処分高比2%削減  
2004年同期比 5.26%削減(2007年度通年)  
(対 Co2 総排出量当たり)  
目 標 達成  
取組内容 受け入れ廃棄物処分量の拡大および、使用燃料を一部重機に対して軽油からバイオディーゼル(BDF)に切り替えた為、受入処分高 1億円当たりの相对比较ならびに総排出量共に、CO2 の削減目標を達成。
- (4) バイオディーゼルの導入の検討  
目 標 達成  
取組内容 前期より検討していた CO2 の削減の為のBDF導入に関しまして、今期から重機 2台(ホイールローダー)に導入。トラブルもなく、大幅な Co2 削減効果が見込まれた。来期以降燃料に BDF 導入重機の増加を検討。
- (5) 力率改善設備の設置  
目 標 達成  
原因対策 現状力率測定を実施。
- (6) 環境コミュニケーション管理方法の確立と推進・維持  
目 標 達成  
取組内容 環境方針、環境活動レポートを会社受付に設置。緊急時対策教育を全社員に実施。

- (7) 環境保全活動の推進と委託先への指示の徹底  
目 標 達成  
原因対策 環境活動レポートをHPに公開。  
啓蒙活動用コンポスの無料配布を4自治体、民間5事業所に対し実施。
- (8) 環境教育・訓練プログラムの確立と推進・維持  
目 標 達成(教育5回実施)  
取組内容 環境経営マニュアル内容の説明を全社員に実施。緊急時対策教育を全社員に実施 今後も継続して教育を実施。  
社会貢献活動の推進  
目 標 公開中  
取組内容 ライブカメラによる処分施設の公開(処分状況の透明性の確保)
- (9) 肥料効果の実証実験  
目 標 継続中  
原因対策 東京農業大学富士農場での実験データ取り終了。公定分析実施完了。  
新規肥料の製造  
目 標 継続中  
原因対策 新規肥料に関して、試験肥料を作成。各種分析を継続中
- 環境関連法令への違反、訴訟等の有無  
廃棄物処理法、肥料取締法等に関し、違反は無い。又、違反等の指摘は無く、かつ訴訟等も無かった。